

3. 職業選択

(1) 卒業後の進路

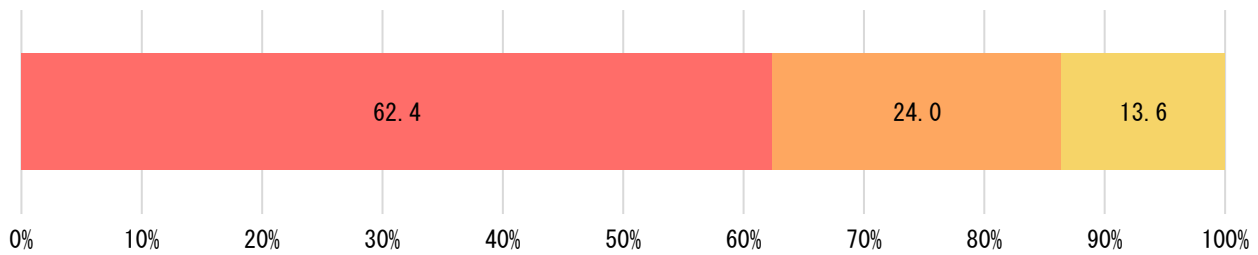
問35 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか。

卒業後の進路について就職と回答した学生が全体で62.4%と前回調査より若干低い水準となっています。

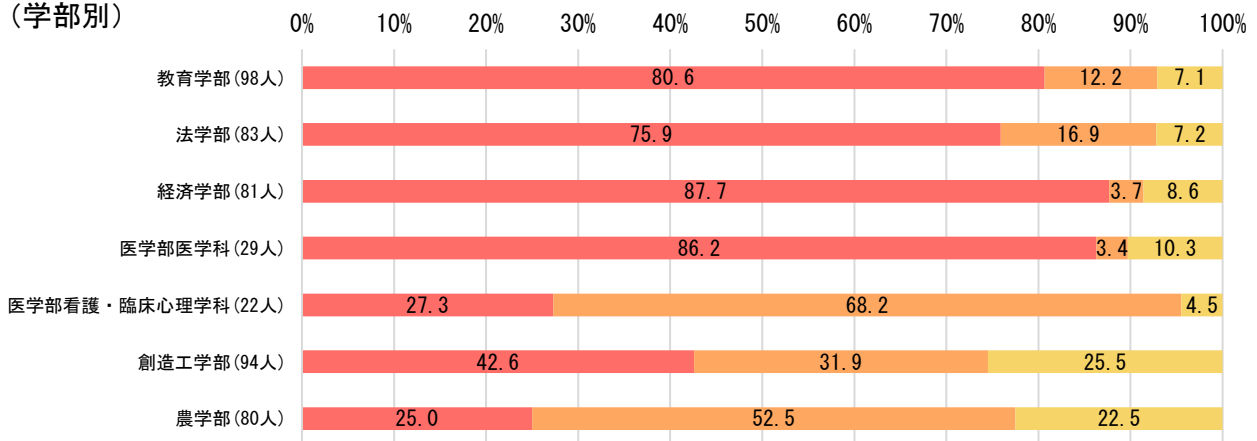
学部別では、文系を中心に学部卒での就職機会が豊富である背景をもとに、多くの学生が早期に就職を選択する傾向が推察されます。一方で、理工系・農学系では地域の産業構造（農業、食品、製造業など）と研究テーマの関連が深く研究開発職への就職を目指す傾向から大学院修了を前提としたキャリア形成を望む学生の比率が高くなる状況が推察されます。

■ 就職 ■ 進学 ■ まだ決めていない

【全体(487人)】



(学部別)



(入学年度別)



(2) 職種を選ぶ基準

問36 あなたがアルバイトをしたとき、何を基準にして仕事を選びましたか。

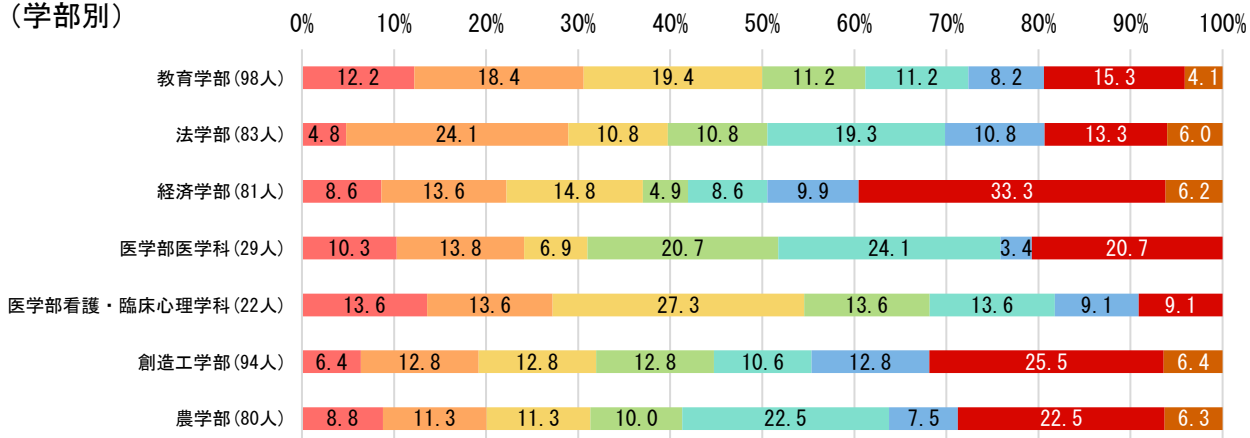
アルバイトの選定基準は多岐に渡りますが、前回調査と比較して「おもしろい仕事や好きな仕事であること」「仕事内容と自己の能力や経験がよく合致していること」を選択する人の割合が増加傾向にあり、アルバイト選定に際して適性や興味を重要視する傾向がみられました。「アルバイトをしたことがない」学生は21.1%と、前回調査から4.5%ポイントの増加がみられました。特に経済学部、創造工学部、農学部で「アルバイトをしたことがない」学生が多くなる傾向がみられました。

- 新しい知識や技術を学ぶ機会が多いこと
- 社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと
- おもしろい仕事や好きな仕事であること
- 仕事内容と自己の能力や経験がよく合致していること
- 給料が良いこと
- 楽である（時間的、身体的、精神的に）こと
- アルバイトをしたことがない
- その他

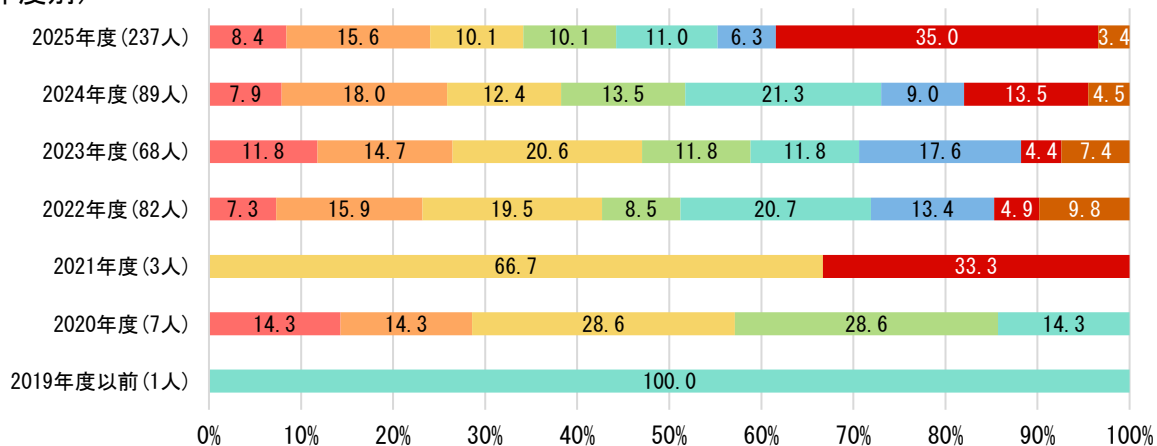
【全体(487人)】



(学部別)



(入学年度別)



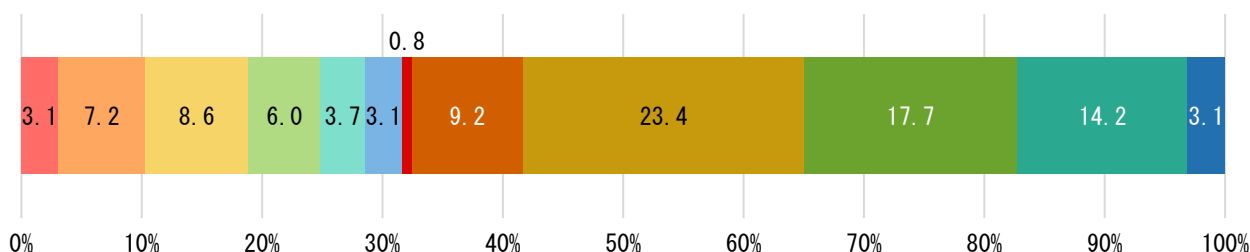
(3) 希望する分野

問37 職業を決めるに当たって希望する分野は何ですか。

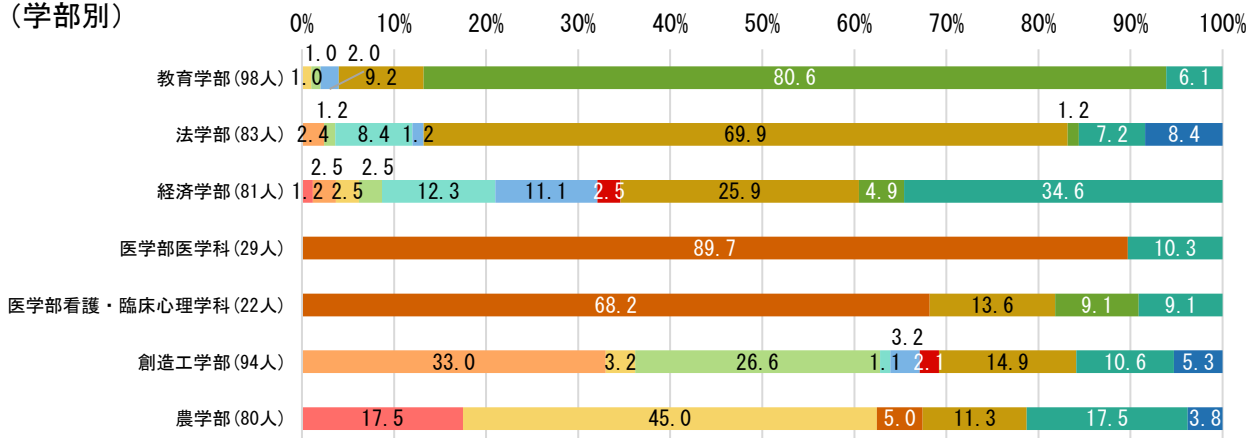
希望する職業分野は、全体では「公務員（国・地方自治体）」が23.4%で最も高く、次いで「教育関係」となる傾向は前回調査時と同様でした。学部別の傾向として、医学部では「保健・衛生・医療関係」、法学部では「公務員」、農学部では「食品・化学関係」が最も高くなる傾向が前回調査から引き続きみられました。創造工学部では「建設・機械関係」が最も高い傾向に変わりありませんが、「情報・通信関係」と「公務員」を希望する学生の割合が増加しました。また、法学部を除くすべての学部において「まだ決まっていない」学生の割合が前回調査と比べて増加していました。

- 農林・水産関係
- 建設・機械関係
- 食品・化学関係
- 情報・通信関係
- 商社・金融関係
- 販売・サービス関係
- マスコミ・出版関係
- 保健・衛生・医療関係
- 公務員（国・地方自治体）
- 教育関係
- まだ決まっていない
- その他

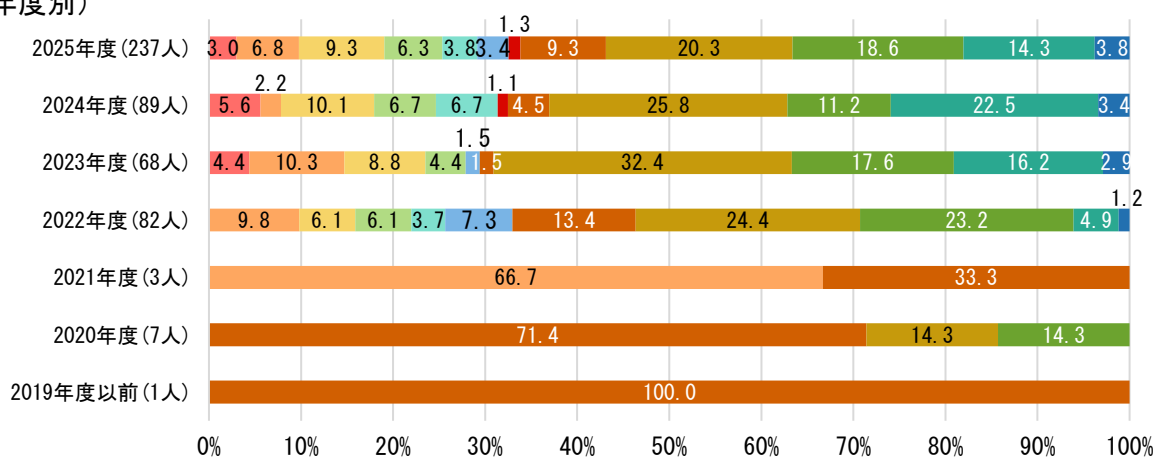
【全体(487人)】



(学部別)



(入学年度別)



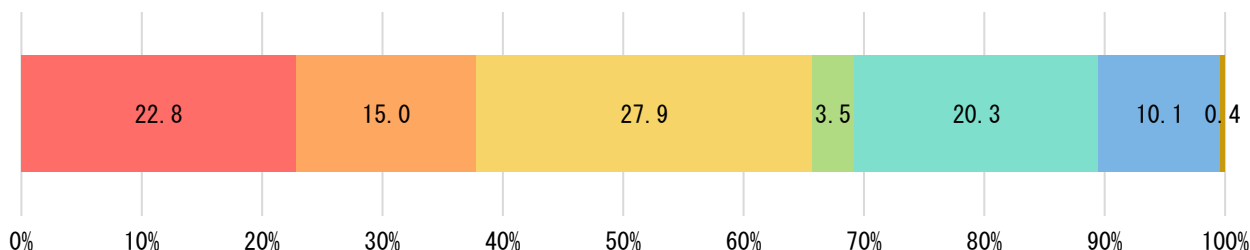
(4) 職業選定で重視すること

問38 職業を決めるに当たって重視することは何ですか。

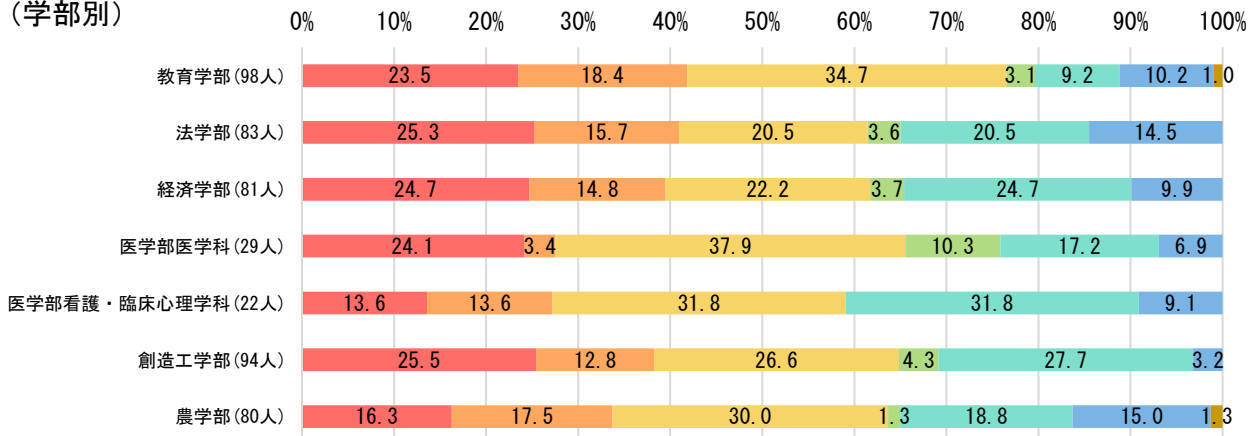
全体では「自分の能力や適性にあっていること」が27.9%で最も高く、次いで「企業の業種・仕事内容」、「勤務時間・休暇・福利厚生」、「企業の将来性・安定性」の順となっており、前回調査と同じ傾向がみられました。前回調査と比較して、職業を決めるにあたり「給料」を重視する学生が3.8%ポイント増加しました。学部別にみると、法学部、経済学部では「企業の業種・仕事内容」が最も高く、その他の学部では「自分の能力や適性にあっていること」が最も高くなる傾向がみられました。

- 企業の業種・仕事内容
- 自分の能力や適性にあっていること
- 勤務時間・休暇・福利厚生
- 企業の知名度
- その他
- 企業の将来性・安定性
- 地域条件
- 給料
- OB・OGの有無や定着度の高さ

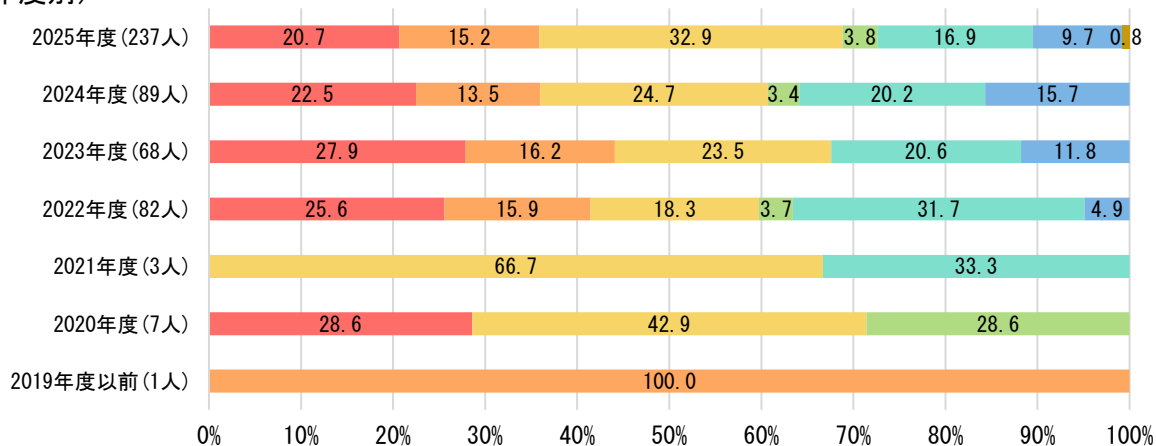
【全体(487人)】



(学部別)



(入学年度別)



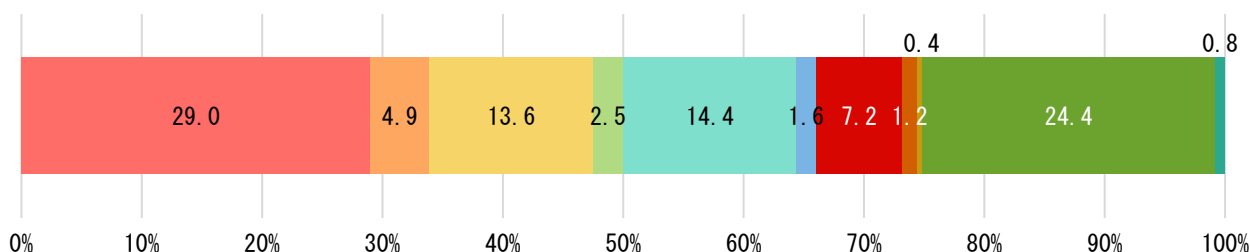
(5) 就職を希望する地域

問39 就職先としてどの地域を希望しますか。

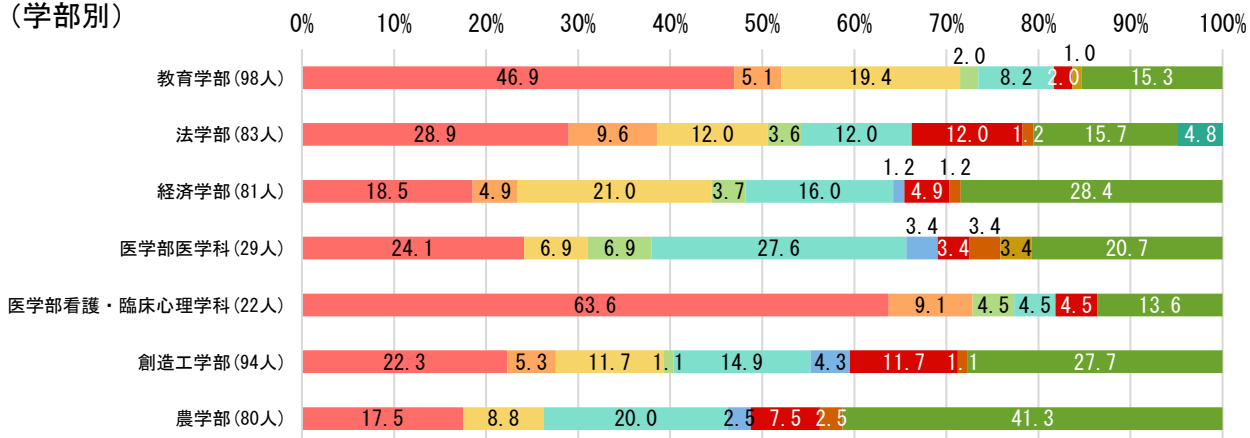
就職先の地域として「香川県内」を希望する学生の割合が最も高く、全体の50%が中四国地方を希望していました。特に教育学部と医学部看護・臨床心理学科では、香川県内での就職を希望する学生がそれぞれ46.9%と63.6%と多い傾向がみられました。次いで「近畿地方」への就職を希望する割合が高く、全体として西日本への就職希望者が多い傾向が示されました。医学部医学科と農学部では「近畿地方」への就職を希望する学生の割合が最も高くなる傾向がみられました。また出身地域別に就職先の希望地域をみたところ、いずれの地域においても「まだ決まっていない」を除き出身地域を希望する学生の割合が最も高くなる傾向がみられました。

- 香川県内
- 中国地方（岡山県を除く）
- 岡山県内
- 中国地方（岡山県を除く）
- 近畿地方
- 中部地方
- 関東地方
- 九州・沖縄地方
- 外国
- まだ決まっていない
- その他

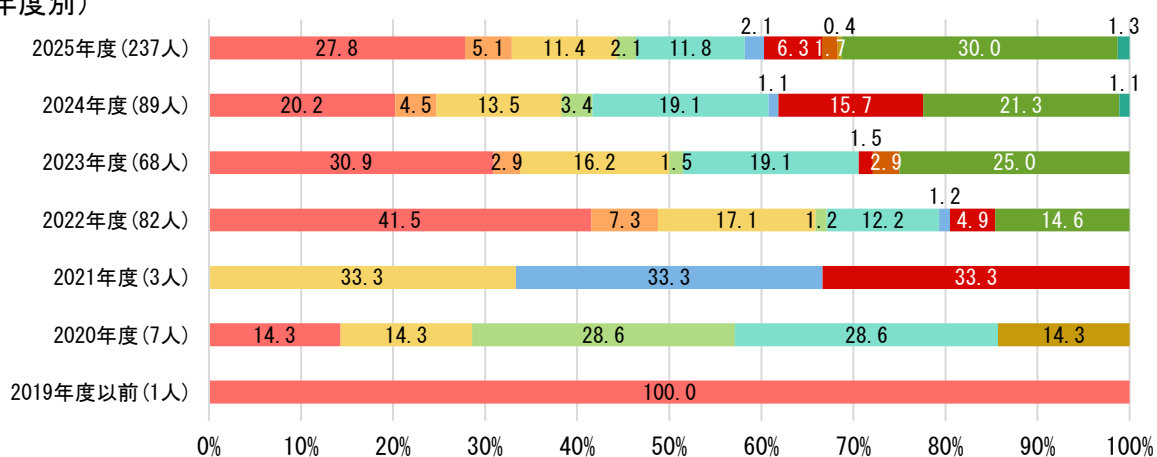
【全体(487人)】



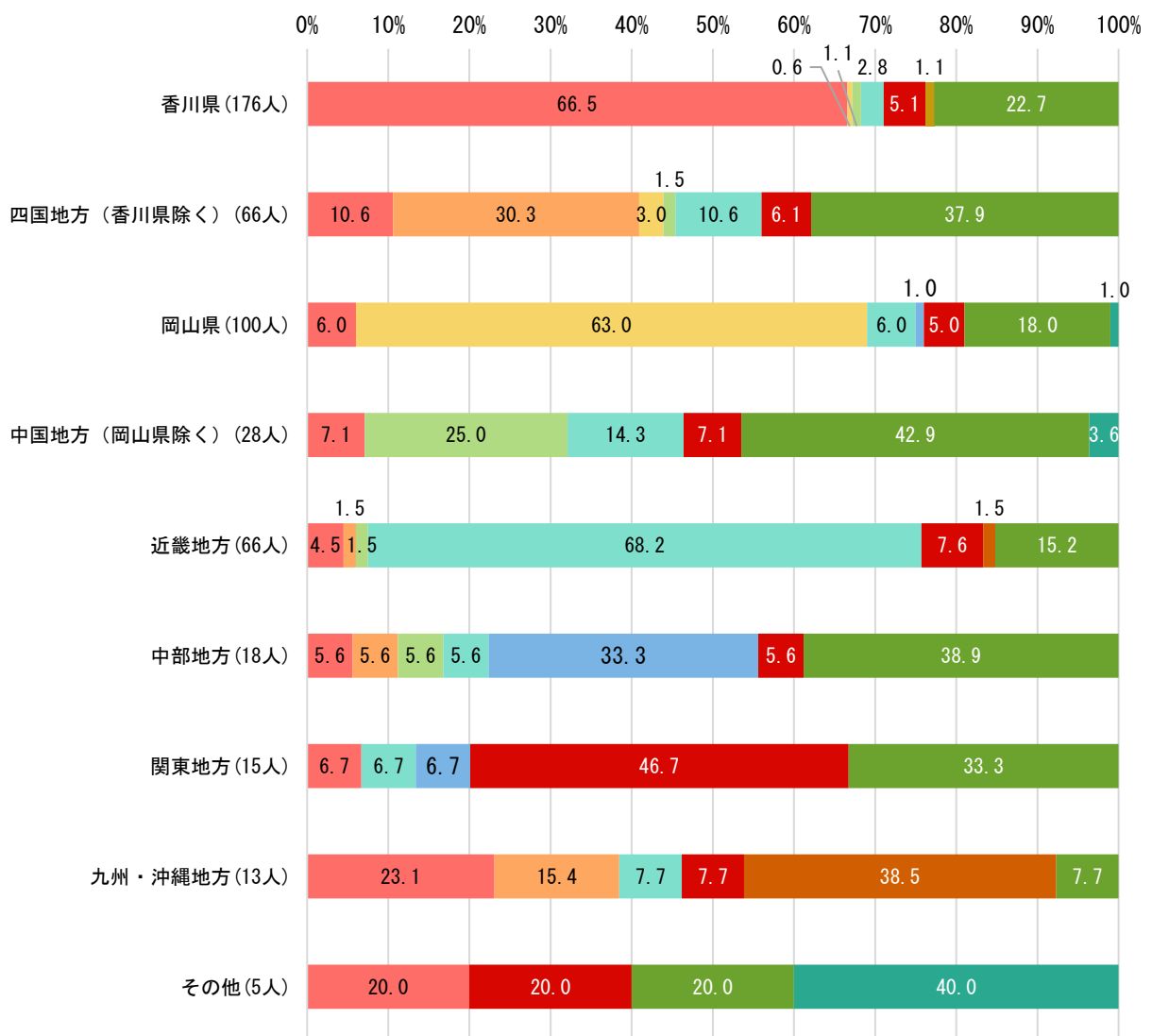
(学部別)



(入学年度別)



(就職を希望する地域×出身地)



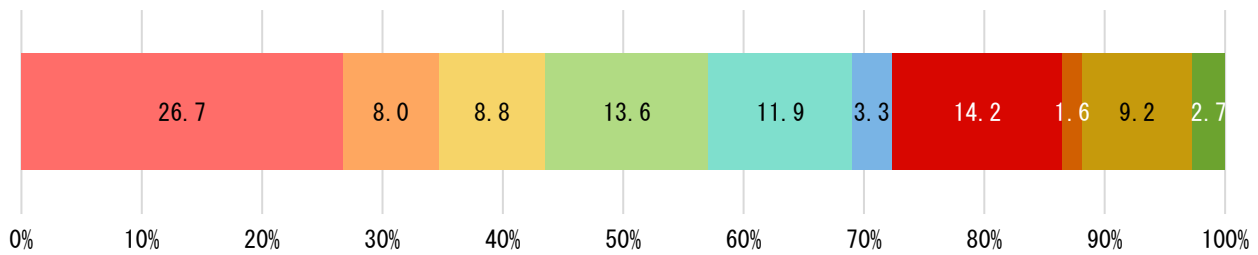
(6) 就職活動で不安なこと

問40 就職活動に関して、不安に思っていることは何ですか。

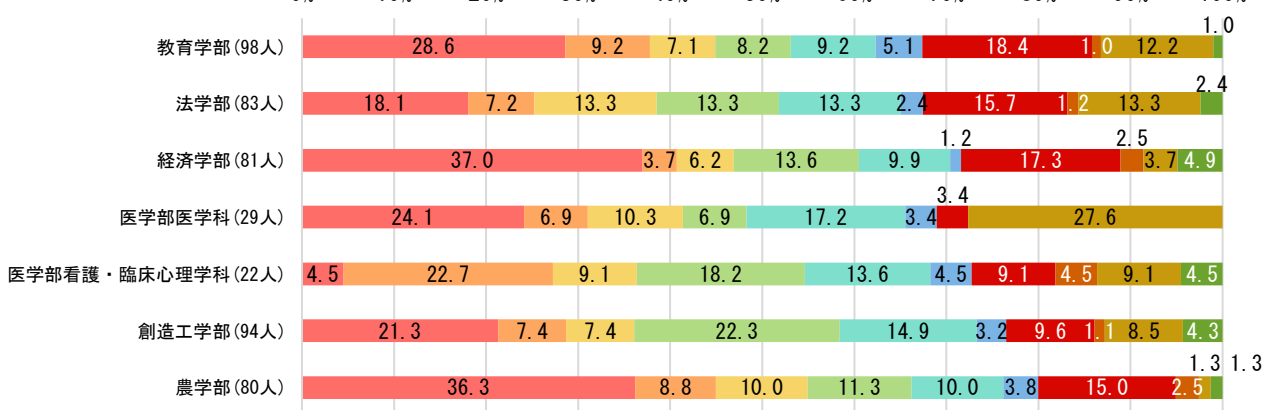
全体として「自分が何に向いているか分からない」が26.7%と最も高く、次いで「面接が不安」「就職活動のやり方が分からない」の順番となりました。
学部別にみると、経済学部、農学部では「自分が何に向いているか分からない」の割合が他の学部と比べて高い傾向がみられました。医学部は他の学部と傾向が異なり、看護・臨床心理学科では「情報収集のやり方がわからない」が、医学科では「不安はない」が最も多くなる傾向がみられました。

- 自分が何に向いているか分からない
- 情報収集のやり方が分からない
- 他の学生に遅れをとっている気がする
- 就職活動のやり方が分からない
- 希望企業が自分を採用してくれるか自信がない
- 語学が苦手である
- 面接が不安である
- 大学の成績が良くない
- 不安はない
- その他

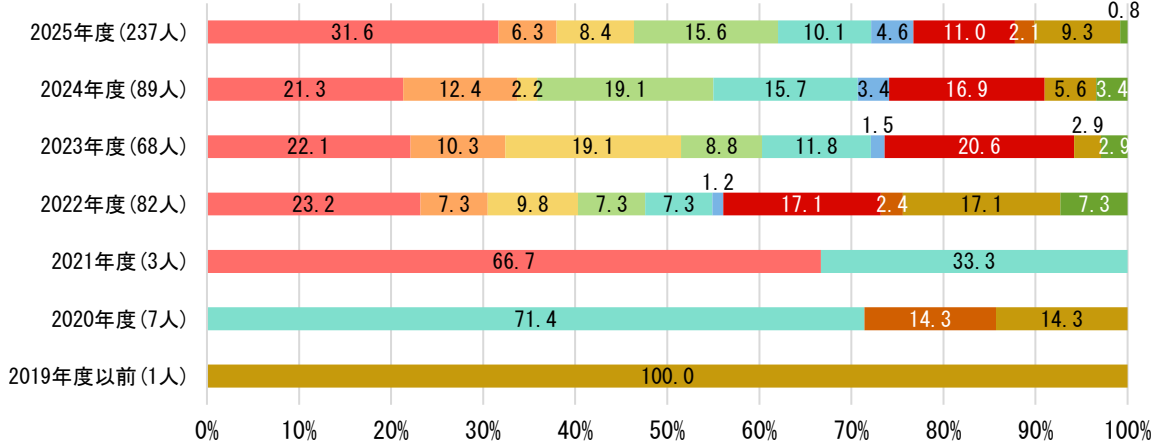
【全体(487人)】



(学部別)



(入学年度別)



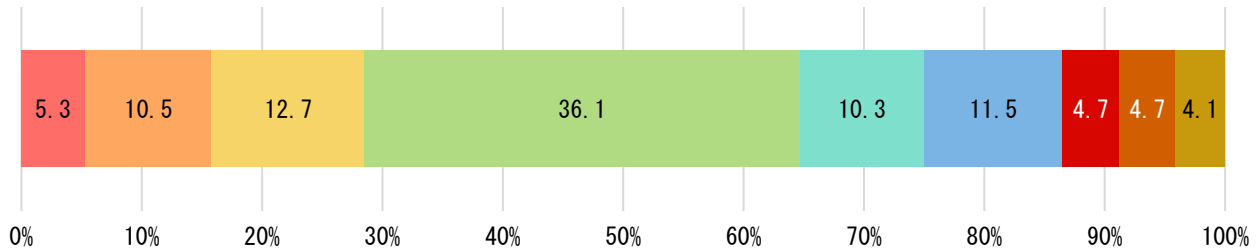
(7) 就職に関する大学への要望

問41 就職に関して大学へ要望したいことは何ですか。

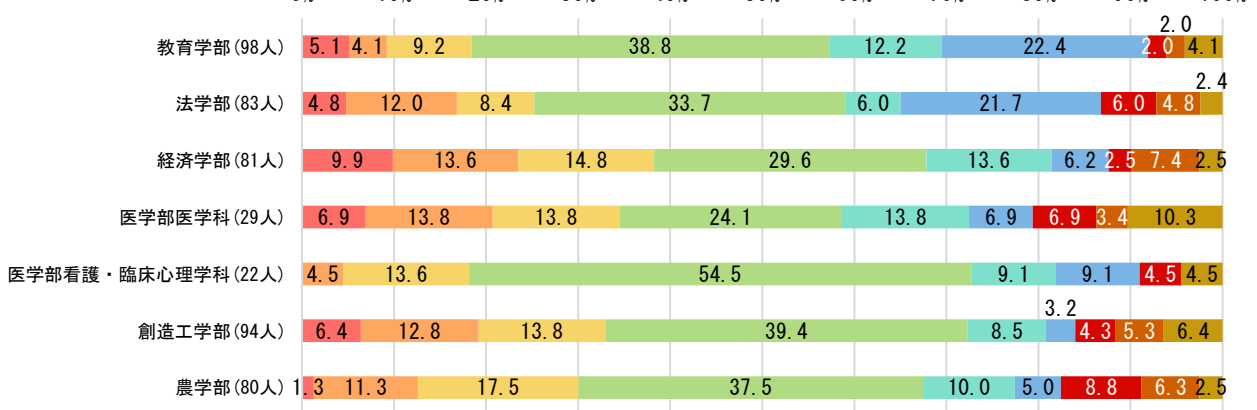
全体としては例年どおり「面接対策、履歴書・エントリーシートの書き方の実践指導の充実」が最も多いものの、その割合は20%台から35%超と大きく増えました。特に医学部看護・臨床心理学科でその変化が顕著となっています。学部別としてはそれに次いで教育学部と法学部で「公務員・教員試験講座を開くなど各種試験の合格対策」が多いものの、割合としては例年より2/3ほどに減少しています。本選考だけでなくインターンシップも含め面接の機会が多くなり、志望先に応じたアプローチの洗練に試行錯誤していることがうかがえます。

- 就職情報誌、就職関係書籍、PC（利用環境）の充実
- ガイダンス、セミナー等の充実
- 相談員による就職相談、職業適性検査の充実
- 面接対策、履歴書・エントリーシートの書き方の実践指導の充実
- 就職・職業に関する授業（キャリア科目）の充実
- 公務員・教員試験講座を開くなど各種試験の合格対策
- 企業説明会の内容充実、回数の増加
- 求人企業の開拓強化
- その他

【全体(487人)】



(学部別)



(入学年度別)

